

平成29年

季刊

春季号

Vol.61

# 亞東



協会役員 謝長廷を表敬訪問（平成29年2月13日）



一般社団法人亞東親善協会

The East Asian Friendship Association

## 一般社団法人亜東親善協会の概要

名称 一般社団法人亜東親善協会

(英名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七―五 砂防会館四階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る。

## 事業

① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介

③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談

⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の斡旋

⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

## 亜東親善協会の変遷

社団法人亜東親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年 東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら発起人となり同年五月二十九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任されました。

二〇一三年二月、安倍会長の意を受け、会長代行・大江康弘参議院議員が会長を引き継がれ就任されました。現在、領土問題等の紛争、北朝鮮の核問題、発展に伴う水・エネルギー環境問題なども山積しております。

アジアの繁栄と平和に貢献するために、本協会員一同、役員陣容を強化し、新会長のもと、叡智を結集し努力を続けております。

## 一般社団法人亜東親善協会の概要

名称 一般社団法人亜東親善協会

(英名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七―五 砂防会館四階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る。

## 事業

① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介

③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談

⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の斡旋

⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

## 亜東親善協会の変遷

社団法人亜東親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年 東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら発起人となり同年五月二十九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一二月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任されました。

二〇一三年二月、安倍会長の意を受け、会長代行・大江康弘参議院議員が会長を引き継がれ就任されました。現在、領土問題等の紛争、北朝鮮の核問題、発展に伴う水・エネルギー環境問題なども山積しております。

アジアの繁栄と平和に貢献するために、本協会員一同、役員陣容を強化し、新会長のもと、叡智を結集し努力を続けております。

季刊「亜東」平成二九年 春季号・目次

一般社団法人亜東親善協会・概要・変遷

目次・協会役員名簿

一般社団法人 亜東親善協会

平成二九年新春互礼会講演会

張仁久・駐日副代表が亜東親善協会の  
新春互礼会に出席

日台関係のさらなる発展を期待して

台湾はおいしい 台北食べまくり旅

事務局だより

二頁

三頁

四頁

一四頁

一五頁

一七頁

一九頁

平成28年5月12日

### 一般社団法人亜東親善協会役員名簿

名誉会長 (理事以外)	1名	玉澤 徳一郎			
参 与 (理事以外)	1名	橋本 靖男			
会 長 (代表理事)	1名	大江 康弘			
副 会 長 (理 事)	4名	山本 順三	張 建国		
		張 碧華	多 忠和		
		赤松 則宏			
専務理事	1名				
業務執行理事	4名	藤山 雅康			
〃		並木 正芳			
〃		柴田 徳文			
〃		笹岡 恭亮			
理 事	10名				
崎谷 秀彦	小松 省二	益山 茂	松永理恵子	三浦 信行	伊野 雅晴
山口 裕志	森 康郎	永島 剛士	小山 博史		
監 事	2名	李 ハロルド	鈴木 慶一		
事 務 局		崎谷 秀彦			
		李 孔曉			

一般社団法人 亜東親善協会

一般社団法人 亜東親善協会

平成二九年新春互礼会講演会

平成二九年二月二日（木）一七・〇〇～一七・五〇

於：ザ・キャピトル東急1F 桐の間

平成二九年度の新春互礼会が開催されました。

互礼会に先立つ講演会では、元防衛事務次官の守屋武昌氏にお話し頂きました。

同氏は一九七一年に防衛庁に入庁、一九九六年には内閣審議官として普天間問題に係わられました。その後長官官房長、防衛局長を経て、二〇〇三年防衛事務次官となられ、二〇〇七年八月にご退職になりました。豊富なご経験に裏づけられた貴重なお話しをお聞きすることが出来ました。

講師：元防衛事務次官 守屋 武昌 先生

演題「トランプ大統領と日米安全保障講演録」

ただいまは過分なご紹介を頂き有難うございます。今日は、トランプ大統領の出現と中国の海洋進出について、私のような見方をする人が日本にはいないのですが、トランプ大統領に対して、日本はどのような対応をしなければいいのかという事と、中国に対して日米両政府がどう対応しようとしているのかについて、今日は私の考えを皆さんにお伝えしようと思っております。



ひとつは、トランプ大統領は選挙戦を通じて、日本は安全保障の対価をアメリカに払っていないということと日本のメディアではそれを批判することなくそのまま日本国内に伝えたので、守ってもらえなくなったら困ると意見が多く出ました。その主張は間違っています。日本国は、しっかり同盟国の義務を果たしています。アメリカの兵力は一五〇万人です。その内、海外にいるのは、二七万人だけです。一二〇万人が、アメリカの本土とアメリカの周辺の海域の、防衛にあ

たっています。アメリカが、世界に展開している兵士の数が一万人を超える米兵が駐留している国は、アフガニスタン（二〇・二万人）、ドイツ（五・三万人）、イラク（四・九万人）、そして、日本は、三万六千人しかいません。また、韓国には、二万八千人しかいない。たった、これだけの人数しかないという事です。

皆さんに知っていただきたいのはアメリカの兵力の圧倒的多数はアメリカ本土にいます。次に知って頂きたいのは、日本に駐留する米軍の経費の、お金を日本がどれだけ負担をしているかということです。駐留している国の中で、日本が一番多い四十四億ドルを負担しています。その数は、日本に駐留するアメリカ兵の費用の七五％を負担しているんです。二位のドイツが十五億ドルで、日本の駐留経費負担は圧倒的に高く、トランプの発言は間違っています。それから、数字に出てこない負担もあります。それは、沖縄の基地を除いて、米軍の基地は、全部国有地なんです。この国有地を日本国政府以外の者に利用させる場合は、借地料が必要なんです。日本国政府は一銭も米軍からお金を取っていません。米軍基地で民有地を使っているのはどこかと言うと、沖縄だけなんです。この米軍に貸し出している土地を、時価換算しますと五〇〇億円ほどの借料にもなるんです。だけど、そういうことを言うのは、大人気ないので、日本政府はそういう事をアメリカ政府には言っていないのです。日本政府

は円安ドル高で駐留経費が高騰した時に、次から次へと日本は、アメリカの負担を肩代わりしてきた経緯があります。結果的に世界で米軍が駐留している中で、一番お金を払っている国が、日本なんです。だからアメリカが日本に対して言うのであれば、同じ事をドイツにも、イタリアにも、言ってもっとお金を払ってくれということであれば良いのですが、日本だけを相手にして、いう話ではないという事です。

それから、二つ目はですね、米国は日本を守ってくれるという日本人は多いのですが、米軍は日本にわずか三万六千人しかいないことが知られていません。自衛隊は二七万人いるんです。アメリカの在日米軍よりも、はるかに多い自衛官が、日本の防衛には必要だということなんです。日本の陸上を守るための、陸上自衛官というのは、一六・七万人いるんです。ですがアメリカはわずか二〇〇〇〇人しかいないんです。これは、基地の管理要員だけで日本を守るだけの戦闘員は、アメリカ陸軍は配備していません。そして海上自衛官はどれぐらいいるかというと、四万五〇〇〇人ですが、それに対して、アメリカ海軍が、一万九〇〇〇人います。ほとんどがアメリカの空母機動戦力の第七艦隊の要員なんです。常時日本列島の周辺海域にいますかというところ、そうではなく、東シナ海、西シナ海、インド洋にいて、一年に一回日本に返って来るか来ないかなんです。それから、航空自衛官が四万七〇〇〇人なんです。これに対してアメリカ空軍

は、一万三〇〇〇人しかいないんですね。航空機の数も、日本の方が、圧倒的に持っております。また自衛隊に無い軍種として駐留しているのが、海兵隊なんです。これは一万六〇〇〇人にいます。これは上陸作戦が必要な時に、空母から発艦した戦闘機による対地攻撃が行われた後の陸上戦闘を行うための上陸要員であって、日本防衛のためだけの部隊ではないというのが、大きな特色です。

加えて皆様知っておいて頂きたいのが、アメリカは、日本と太平洋戦争を戦いましたが、日本が負けて、アメリカ軍が日本占領して、一番最初に何をやったかということ。一つは、日本陸・海軍の解散と、一つは、陸、海、空その他の戦力の不保持と戦争の放棄を定めた憲法九条を制定したことです。米国はどうしてそのような占領政策を執ったのかということ。これは日本の学校教育で、教えられる事はありません。私達の父親、兄弟が、アメリカに対して、物の見事な戦いをしたという事が戦後の日本では、教えることも知らせることも抑制されてきた不思議な現実があります。

三つのことを申し上げますが、まず真珠湾攻撃ですね。日本とアメリカの共同政策「トラ・トラ・トラ」という映画があります。あれは山本五十六という、日本海軍連合戦隊司令官の下で、日本海軍が考え出した海の戦いで、空母をどの様に使うかを考えた作戦です。アメリカの真珠湾に、アメリカの太平洋艦隊の基地があるんですが、足の短い戦闘機の航

続距離の不足をカバーするため、日本から遠く離れたハワイまで航空母艦で運び、発艦させて、強襲したと、こういう戦い方を世界の海軍で初めて行ったのが日本海軍だったので。す。

この輝かしい戦歴の日本海軍には後日談もあって、それから数年後のミッドウェイ海戦の時は、日本海軍がもの見事に負けてしまってますね。アメリカはどんな事をやったかと言うと日本海軍の空母がどの島を狙ってくるかという事を知られば、日本海軍を叩けるチャンスをつかめるという考え方だったんですね。当然日本もそのことは判っていて情報を秘匿をして、ミッドウェイの方に近づいて行ったんですが、その時にアメリカがやった有名な話なんです。ミッドウェイを指すY島が今、水不足だ」と言う情報を流して、それを傍受した日本の部隊が、「今Y島は水不足だといったんで、米海軍は日本海軍の攻撃目標としているY島は、ミッドウェイだということを知ったのです。そしてアメリカはどうしたのかとかいうと、日本の攻撃隊がミッドウェイ攻撃を終わって空母に着艦するときに狙って、アメリカの航空機が空母に襲いかかるという事をやったんですね。これは空母というのは今でいう大型石油タンカーのような船体が大きく、小さな船と比べて自在に動き回れるという運動性はなく、空からの攻撃に対しては大きな脆弱性を持つという弱点があったのです。

この二つの海戦から、アメリカ軍が学んだ事というのは、空母の位置を明らかにしないという事なんです。今世界の海には、アメリカの空母が常に七隻活動してますが、どの国に対して、アメリカは、空母の位置を明らかにしません。横須賀に空母が入ってきた時に、初めて空母が入ってきたとわかるんですが、横須賀から、日本の領海を離れた途端、陸・海・空の自衛隊が航空機やレーダーを駆使して捜してみても、空母を捕捉することはできません。空母の運用には、隠密性が欠かせないものであることが、日本では理解している人が、大変少ないです。

これはどうして、探せないかと言うと、海が大変、広いことと、海上に陸上と同じようにレーダーを配備することは、大変な数と膨大な経費を必要とするからです。二年前マレーシア航空が飛んでいる時に、途中でわからなくなりましたですね、あれは、このことを物語っています。現代の科学技術の発達は、陸地にさえいけば、どこにいるかというのとは分かりますが海だとそうはいかないですね。地球上の陸と海の割合は、陸が三割で、海が七割なんです。海でそういうものを探知しようと思ったら、レーダーサイトや監視塔を建てないといけないんです。海に浮かべられないですね。では、衛星で見えるかというと、衛星で見えるのは、航空機の飛行経路だけという本当にちょっとした狭い空間だけなんです。それで、海難救助の時に、日本はアメリカに次いで、太平洋

の東半分を受け持っていますけれども、これも、日本はそういう海難に駆けつけるためには、前提はその船が、何の連絡もなく、沈んだら探しようがないですね。SOSという電波がないと、どこで遭難をしたかという事がわからないですね。だからアメリカは、空母を運用する時に、その掴まれないという特性を利用しているという事なんです。それを教えたのは日本の海軍であり、日本海軍との戦いで学んだという事なんです。船の上から飛行機を最初に飛ばしたのもアメリカではなく、ヨーロッパでもなくて日本海軍なんです。しかし、空母の脆弱性を示したのも、日本海軍だという事なんです。アメリカの海軍というものは世界で一番強いという風に言われていますが、それは日本海軍と戦って、アメリカが得た教訓に支えられているという事を、私たちは知っておく必要があるという事をお伝えしておきます。

そしてもう一つがですね、アメリカは、戦争が終わったときに三つの事を行いました。日本軍の無条件降伏、陸軍・海軍の解散と、それから、憲法九条で非武装を定めさせたという事なんです。その時にですね、アメリカ軍が占領軍としてどれぐらい日本に来たかという数字なんです。これは私、ずっと探したんですが、なかなか探せなくて、「一億人の昭和史」という毎日新聞が発行した、雑誌にやっと載っていたのですが、約六〇万人。六〇万人と言うと、その大きさが分かりにくいと思いますが、日本の国家公務員の一般職の定



員が、三〇万人なんです。これに、特別職の自衛官の定数二七万人を加えた数字です。別の見方をしますと、自衛官の数二七万人に地方公務員である警察官三十一万人を加えた数になります。日本を占領するのには、これだけの兵力を必要としたこと。ドイツも占領統括された国ですが、二〇万人と日本と比べて数が小さいのが判ります。ここにおられる方は、イギリスにも、フランスにも、ドイツにも、行った事があると思いますが、これらの国は、平野なんです。平野というのは、何かと言いますと、中心の土地から四方八方に動けるんです。

国土面積は、日本とドイツはほぼ同じなのに、占領には日本の方が多くの兵力を必要とした。それは、日本の地形がドイツと全く異なるからです。学校教育では、日本は世界で七〇番目の小さい国だという風に教えられていますが、私はこれは間違っていると思います。日本は確かに面積は、七〇番目なんです。国の形がヨーロッパの先進国と全く違うんです。それをですね、この地図でご覧になって頂きますと、ヨーロッパの大陸に、日本列島を落とすと、左の方がイギリスになるんですが、イギリスの端からイタリアの端までの長さになるんです。この長さは、どれ位あるかと言いますと、三〇〇〇キロなんです。これはアメリカ大陸で言いますと、シアトルに日本の最北端である稚内、択捉島を置きますとですね、日本の最南端にある沖ノ鳥島までの距離が、何処

にあたるかという、メキシコシティになるんですね。この三〇〇〇キロという長さで、ちょうど、東西南北に三〇〇〇キロのやや矩形に近い形になっているんです。その結果どんな事が起きるかという、日本の陸の面積は、世界で七〇番目ですが、日本の海の面積は世界で七番目になるんです。中国の海の面積は、どうなのかと言うと、世界で七〇番目なんです。

アメリカは日本を占領した時に、直面した問題は、日本のこの地形が、これだけ兵力を吸い込むというのは、予想外の事態なんです。日本を非武装にして、憲法九条を定めて、抵抗出来ないようにしたら、さっさと帰ろうとしていたんです。そのアメリカの認識を変えたのが、朝鮮戦争だったんです。朝鮮戦争で、要するに世界が共産主義陣営と資本主義陣営が対立することになった時に、朝鮮を守るために戦ったんですが、南の釜山まで追い詰められてしまう、その戦局を変えるため日本に駐留していた占領軍が共産軍の背後を突く形で仁川上陸に成功し、国連軍は、米軍が入り、鴨緑江という中国国境まで押し戻したんですね、そこで、中華人民党軍が参戦してきたんですね。それでまた、ソウルまで押し戻されて、ソウルの奪還が北と南の間で何回も繰り返される激戦になり、その間にアメリカは朝鮮戦争でたくさん兵士を失うんですね。共産主義陣営と、自由主義陣営の対立という戦後の新しい国際情勢が現出した時に米国が、じゃあ日本に

六〇万人の米兵を置いてられるかと、戦争が終わったのに、米国の世論が許さない。その時にアメリカが考えたのが、これほど恐れ嫌った日本を、再軍備させるんですね。アメリカ兵、六〇万人をずっと日本に置いておいたら、アメリカの国民が許さないわけです。自分たちの夫、息子をいつまで戦地に置いておくんだと。

アメリカの都合で、日本の自衛隊は再軍備させられたという歴史の事実を忘れてはいけません。国家というのは、自分の国にとって一番いい選択をするのであって、アメリカに守ってもらっているという、トランプの発言の一番の問題点は、事実と反しているだけでなく、東アジアの安定が日本にとってももちろん、アメリカにとっても重要であるという事実なんです。それよりも、日本が米国に二度と抵抗できないようにしてやろうとしたのが、アメリカの戦略だったんです。だけど今度は自分達の兵隊六〇万人を置いておくのが、アメリカ国民がそれを許さないと、そうなる憲法九条を作っておきながら、再軍備を求めたという事なんです。このことを日本国民に気がついて頂きたいという事なんです。それと日本の自衛隊が、二七万人なのに対して、米国はわずかか兵力しか、置いていない事と、それにもかかわらず経費額でも負担割合でもアメリカが駐留している世界各国の中で、一番高いんだと。これを日本は言っていて、全然、トランプ大統領に臆する事はないという事を、まず皆さんに知って頂

きたいという事です。

今回の講演で二つ目に知って頂きたいことが、安倍総理が、一昨年になりますが、なぜ「平和安全法制」を作ったかということ。安倍内閣は、あの法案を国会で審議する時に、一言も中国の脅威に対抗するためとは言わなかったんですね。中東の南スーダンで活躍する陸上自衛隊のPKO活動の、駆けつけ警護のために必要だという政府の説明になっていますが、私は実際は中国の二つの戦略に日米両政府が防衛協力して対応する必要性に迫られたからだと考えています。

六ページの地図をご覧になって頂きたいんですが、中国はですね、先ほど言いましたように海の広さは世界で七〇番目なんです。しかし、この列島戦略というのは、この中国の海をここまで広げようという戦略なんです。現在中国が推進しているのは「第一列島戦略」で、その起点は、日本の九州から始まっているんですね。九州から始まって、ブルネイを通過して湛江を通過して中国本土に戻るといふものなんです。

中国には加えて、「第二列島戦略」があり、東京、伊豆、小笠原諸島を経て、サイパンを経てインドネシアに至る、これを中国海軍の活動区域にするという、他国の領域を自分の領域とする奇想天外な事を考えているわけですが、その中で、南シナ海の、色々な島を領有しようとしていますね。この意味を、日本では色々言われておりますが、この九段線と言う九つの波線で示された中に、南沙諸島や、岩礁があつて、

六ページの表の下にある、図を見てもらえるとわかりますが、これを中国では、「牛の舌」というふうに呼んでおりますが、この舌の先にあるのが、南沙諸島で、中国軍は九つの基地を作っているんです。ここを地図で見ると、第一列島線が曲がってくる場所なんです。これは私は、なぜこんな事をやるのかということ、考えてみると、第一列島線戦略は概念としては判るとしても、他国の領土・領域を実効的に支配することになる九段線構想の実現のために軍事基地建設を着々と進めている。アメリカは、最初様子見の状況がながくつづいていました。しかし、この九段線の中で中国が基地を次々と作り出します。これに対してアメリカは非常に危険だと感じ、日本との防衛協力の必要性を認識し、安倍総理はそれに対応できる国の体制整備として「安全保障法制」があつたと私は考えています。

中国が南シナ海で、陸上の軍事基地を必要とするのは何故なのか、私には中国は海洋民族ではないことも大きな原因であると考えています。日本は大和朝廷の時代から、大陸の文化を吸収するためには、海を渡らなければなりませんでした。皆さんはその遣唐使・遣隋使というのが簡単に行けたというふうに思っておられるかもしれませんが、大体、一／三しか戻って来なかったという話を聞いたことがあります。三分の二は海難で亡くなったり、中国から帰ることが出来なかったんですね。日本の将来を担う、すごい英才である空海

や最澄というのは、帰ってきた数少ない人の一人なんです。ね。それを、どれ位に多くの人が海を渡ったのかという事は、遣唐使が日本を離れる前に、お参りしたという福江島にあるお寺に残っています。そこに行きますと無数の石が置いてあるんです。お寺の人によると遣唐使が無事に帰って来れる事を祈って置いて行った石だということです。日本は大陸の文化を撰取するために、それだけの犠牲を払ってきたという史実を知って頂きたいと思います。中国では、シルクロードで文化は陸路で行われました。そして、NHKでは、「海のシルクロード」と報道していましたが、後半は、中東の人達が海のシルクロードに参加してから、変わってきます。この第一列島線の構想を出したのは鄧小平の時代ですが、大変長期的な展望をしていたことに驚かされます。中国が南シナ海及び東シナ海の海洋支配を行う上で一番最初に考えたのは、何かと言うと、一つは、当然ながら海軍力の整備ですが、もう一つは、海軍戦略です。私にはこの戦略は日米の「太平洋戦争」を分析の上、米国の航空母艦を中国の支配海域に近づけないようにすることを狙っています。

中国が太平洋戦争という戦史から何を学んだかと言うと、一つは真珠湾攻撃です。「トラ・トラ・トラ」ということで映画化されました。一つは、硫黄島の戦いです。これも「硫黄島からの手紙」で映画化されています。私は現役の頃は、アメリカはドイツ軍との戦いにもすごい手を焼いたんです

ないかと思っただけですけれども、後年アメリカに行く機会が多くなり気が付いたことは、ノルマンディー上陸作戦の記念碑というのは、フランスにあるだけでアメリカ本土にはないですね。しかし、アメリカにはですね、日本との戦いの戦勝記念碑というのがあるんですね。一つは真珠湾戦争のものが、ハワイのアリゾナ記念館にありますね。

もう一つは、アメリカのワシントンにあります。アメリカはあれだけの戦争をしておきながら国民の見える形の戦争記念碑は、意外と少ない感じをしています。その中で私の印象に深く残っているのは、アメリカの国会議事堂と、リンカーンの像を結ぶモールの中間にある硫黄島で一番高い摺鉢山に、星条旗を掲げた七人の兵士の像です。これは何を物語っているかというと、アメリカが太平洋戦争で戦った陸戦のなかで、アメリカ人の死傷者数が、日本の兵士の死傷者数を上回った唯一の戦いが、硫黄島の戦いなんです。硫黄島の戦いでは、日本人はほとんど生還することはできなかったんですが、硫黄島を守った日本の兵隊さんは、ここを取られたら、自分たちの本土が直接アメリカ人の空襲にあうようになるという事で、少しでも長く戦いを継続して、日本に被害を及ぼさないようにすると、それは必ず将来アメリカに交渉する際に、有利になるというような考え方があったんだと思います。日本人の多くの方が、アメリカにとって大変だったのはヨーロッパでの戦いだと思っておられるかもしれませんが、し

かし、アメリカのワシントンに行った時に、私が実感したのは、硫黄島での日本との戦いが、アメリカ国民にとって、後世に語り継ぐ史実の一つとして位置づけられているという事なんですね。

そういう、ものすごく苦労した相手だからこそ、徹底的にアメリカに歯向かわない様にするという事で、憲法九条だったんですね。そして陸軍・空軍の解体だった。アメリカはそれから六〇万人の駐留軍を置いて、抵抗を起ささないようにしたんですね。しかし朝鮮戦争で、ソ連・中共という新しい軍事脅威に直面する。もし、日本列島が共産陣営の占領することとなったら、アメリカはどこに行くかと言うと、ハワイまで後退する必要が出てくるんですね。すると、ハワイから、アジア大陸における米国の損益を確保しようとしても、六〇〇〇kmから七〇〇〇kmも離れた遠隔に東アジアは存在することに、ソ連や中国に対して軍事力の抑止力も対処力も働かない。どうしても日本列島を不沈空母として米国の権益を守らないとダメだと。東アジアの共産主義化を防ごうと思つたら、日本に米国の軍隊を置かないといけないんです。だけど六〇万人置き続けることは、アメリカの国民の理解が得られない。それで、敵国として戦った日本なんだけれども、アメリカの国益を守るために、再軍備させたという事なんですね。この史実を私たちは、忘れてはいけないと思うんですね。アメリカはアメリカの国益があつて、日本と日米安全保



障条約を締結し、日本も、思いやり予算と言っていますが、アメリカ軍が日本に駐留していることが、東アジアの平和と安定の基軸になっている現実にも立脚して、アメリカと日本は同盟を維持しているのです。

一番最後になりますが、空母というのは、どういった陣形で動いているかということをお話ししたいと思います。日本

海軍が、いかにアメリカ海軍を恐れさせたのかという事が、現在の米海軍が、洋上で空母を運営する陣形に残っているという事です。米海軍は、まず空母の周りに護衛艦七隻を配備して空母の周囲を固めています。それからもっと遠方には、空母搭載の戦闘機が監視飛行しています。海中に潜む敵の潜水艦に対しては、遠く離れた陸上基地から対潜艦相手には、対潜哨戒機P3Cというのが飛んできて、潜水艦を

探知して、攻撃を行う体制を維持しています。私が現役の時代に、米海軍の招致で、空母に乗艦した経験があります。空母機動艦隊というのは、空母一隻に対して十隻の護衛艦がつくんですね。私が厚木からへりで、空母に乗艦したときは、空母の周りに、護衛艦がいっぱいいると思ったんですね。艦隊を想像していました。だけど、空母の周りには僚艦の姿は見えなんでしょうね。空母が東京湾にいますとすると、五〇キロ先の茅ヶ崎やつくば市に空母の周囲を取り囲むように護衛艦は航行しているので、駆逐艦や、迎撃ミサイル、対空機関砲といったものを持っているのは、五〇キロ先にしかないんです。それで空母搭載の戦闘機はどこにいるかと言うと、四〇〇km離れた大阪や気仙沼にいますね。これは、空母を攻撃するのは、まず空からの攻撃が行われるので、航空機の燃料の続くギリギリの所で待機しているんですね。敵機が近づいてきたら、はやくつかまえて艦載戦闘機は、航空戦闘を行うだけでなく、敵機の位置や機数の情報を航空母艦に伝えるんですね、すると、航空母艦は、敵機の進行方向と逆方向に進路を変え敵機から離れて行動をとるのです。これは空母は見つかったら終わりという、日本海軍との戦争体験が、今でも生きています。それから、潜水艦を探知するための、対潜哨戒機（たいせんしょうかいき）も常時監視飛行を続けています。アメリカの第七護衛艦隊の空母は、たった一隻で、大海原の中にいることは知られていません。そし

てその空母に四〇〇〇人も兵士が二四時間体制を維持するために勤務しているのです。

中国の「第一列島戦略」、「第二列島戦略」は、アメリカの海軍の兵力の一番要である空母を近づけさせないための戦略なんです。そのために、中国人が考えたのは、日本とアメリカの太平洋戦争の戦い方を分析して「不沈空母」の役割を果たす、沢山の硫黄島を作るという事だったんです。そして不沈空母に飛行場と港湾と、レーダと通信の施設を備えた軍事施設を海洋に建設することでアメリカの空母を無力化しようという戦略です。

私が気になっている事、この第一列島線の先には、日本の先島諸島、沖縄や尖閣諸島や奄美の群島があることですね。中国の狙い通りに第一列島戦略が完成すると、次は第二列島線になります。日本の伊豆諸島、小笠原諸島、米国のグアム、サイパンということになります。中国というのは、こういう破天荒な事を考える民族なんです。私は中国が、なぜこんな事を考える民族だと考えるかと言いますと、万里の長城を見ているからなんです。万里の長城というのは、あれだけのものを、あの時代に、秦の始皇帝の時代に敵の侵入を防ぐために、作ったという歴史があります。やはり海洋民族ではないので、陸地に根拠をおいて、物を進めていくという事なんです。これをやられると、アメリカは中国に対する軍事の抑止力、対処力が弱まることになり、結果として東アジ

アの米国権益を失うことになります。これを避けるためには日本の防衛協力が必要なんだという事であります。

今日のまとめになりますが、トランプ大統領が言うように、日本はアメリカに守ってもらっているわけではないということ、是非皆さんにご理解頂ければと思っております。



講演会后 新春互礼会にて

それから今回の安倍総理の安全保障法制は、やはりアメリカの要請に応えたものと考えられますが、それ以上には日本の平和と安定、それから繁栄を維持していくためにも、必要だったものだったということ、皆さんにご理解いただければと思ってお話をさせて頂きました。



あいさつする張仁久・駐日副代表

堅実な道を歩んでいく」という方針に沿って努力していく」と述べた。

その上で、「東アジアの安定のために、台湾と日本が経済、政治、文化といったあらゆる面でさらなる発展を促し、双方の関係が前進するようにしてい

張仁久・駐日副代表が亜東親善協会の新春互礼会に出席

台北駐日経済文化代表処（以下、駐日代表処）の張仁久・副代表は二月二日、「一般社団法人 亜東親善協会」（以下、亜東親善協会）が都内のホテルで開いた「新春互礼会」に出席した。張・副代表はあいさつの中で、「中華民国（台湾）は国際的に色々な挑戦に直面しているが、我々は、蔡英文總統の『台湾はいかなる挑戦にも、屈することなく、一貫して



駐日代表処の張仁久・副代表（写真左3）  
粘信士・横浜分処長（左5）  
亜東親善協会の大江康弘・会長（左2）

当日は新春互礼会の前に、元防衛事務次官の守屋武昌氏が「トランプ大統領と日米安全保障」をテーマとした講演会も開催された。

（台湾週報より転載）

たい」との考えを示した。

亜東親善協会の大江康弘会長は、北東アジアの安全保障も含め、中華民国（台湾）は日本にとり重要な国家であると強調し、同協会の目的である中華民国（台湾）との友好・親善を今後も民間の立場で促進していくとの方針を示した。

この日の新春互礼会には、岩城光英・元法務大臣、「公益財団法人 日本台湾交流協会」の柿澤未知・総務部長、渡辺博通・衆議院議員らもあいさつし、粘信士・駐日代表処横浜分処長による乾杯の音頭の後、会員や来賓間の和やかな交流が行われた。

## 日台関係のさらなる発展を期待して

日本台湾交流協会理事長 今井 正



二〇一七年一月一日、当協会は「公益財団法人日本台湾交流協会」へと名称変更を行いました。一九七二年の設立以来、当協会は日台の架け橋として、実務関係の発展に取り組んできました。設立から四五年の間に、日台の民間関係は急速に発展し、一九七二年当時一〇数億ドルに過ぎなかった双方の貿易総額は、二〇一六年には六〇二億ドルに拡大し、二〇数万人に過ぎなかった双方の人的往来も、六〇〇万人を突破しました。日台間の民間交流が拡大するにつれ、当協会が担うべき役割は当然大きくなってきます。このような状況の下、名称に「日本」と「台湾」を加え、交流を担う対象を明確にすることにより、当協会の認知度の一層の向上を図ることが必要だと判断し、今回の名称変更を行いました。新たな名称の下、日台関係の更なる発展のため、我が国の対台湾窓口機関として、より積極的な努力を傾注していく決意です。

台湾は日本にとって重要なパートナー、大切な友人であり、日本と台湾は、亜東親善協会をはじめとする各界関係者の努

力に支えられて、非常に良好な関係を築いてきております。昨二〇一六年も、日台関係には新たな進展が多くありました。

四月に熊本で発生した大地震での甚大な被害に対して、台湾の皆様から迅速で暖かい支援をいただき、陳菊・高雄市長と頼清徳・台南市長といった地方自治体の首長が被災地を直接訪問されました。台湾の皆様の温かいご支援に多くの日本人が励まされ、日台に深い友情の絆があることを改めて実感しました。

五月には、台湾で新たに蔡英文政権が発足し、これまで積み重ねてきた友好と信頼を基礎とし、新たな日台関係が切り開かれることへの期待が高まりました。また、謝長廷・元行政院長が駐日代表として新たに着任されたことは、台湾が日本との関係を重視していることを物語っています。

一月には、台北で「貿易経済会議」が開催され、当協会と亜東関係協会との間で、新たに「日台製品安全協力覚書」、「日台言語教育交流覚書」の二件の覚書を締結しました。二〇一一年に投資取決めが締結されてから現在までに両協会間で締結された協力文書はこれで二二件となり、こうした覚書等の締結により、日台間の実務関係は着実に進展してきております。

また、文化交流面では、六月に四五年ぶりに台北でNHK交響楽団台湾公演が行われたほか、二月には東京・九州国立博物館精品展が故宮南院で開催される等、大型の文化事業



が実施されました。

日本と台湾は、深い信頼と、成熟した友好関係を有しています。二〇一六年に当協会が実施した世論調査によると、台湾人にとって最も好きな国の一位は日本（五六％）であり、二位の中国（六％）、三位の米国（五％）を大きく引き離す結果でした。これは、日台双方が各分野において交流を積み重ねてきた結果であり、大江康弘会長をはじめとする亜東親善協会関係者のご尽力に深く敬意を表するとともに、今後も日台関係がより一層発展していくことを期待します。



## 台湾はおいしい

### 台北食べまくり旅

亜東親善協会理事 柴田 徳文

三月三十一日の定年退職日を前にして、学生たちの真似をして卒業旅行に行ってきました。行先はもちろん台湾。食べまくりの気まま旅をもくろみました。

台湾には過去に何度かお邪魔しましたが、全部仕事の旅か、自由のきかない団体旅行の一員でした。今回はそんな束縛は一切ごめん蒙って、往復の便と宿だけ決め、あとはガイドもなし、オプショナルツアーもなし、近郊の観光地巡りもなし



おいしい棺桶

の思うまま旅行をしました。メインの目的は、徹底して食いまくること、特に高級な中国料理ではなく、台湾でなければ味わえないものを求めました。というわけで、先ず向かうのはB級グルメの聖地、夜市です。世界にその名が轟いている士林夜市に行くこと

にしました。ホテルの近くに雙連という地下鉄（捷運）の駅があり、そこから一〇分足らずで行けます。この電車はすぐれものでした。料金は距離によって違うようですが、市内のほとんどの場所は最低料金の二〇元で行けます。車両はまだ新しく清潔でしたが、何より感激したのは、誰もが老人の私に席を譲ってくれたことでした。若い人ばかりでなく中年やもしかしたら老境に達している人まで、男女を問わず席を譲ってくれました。台北滞在中何度も乗りましたが、満席の場合一度の例外なく席を譲られました。若い人がスマホに夢中だったり寝たふりして優先席を占領している日本を思い出して複雑な気持ちでした。



匂いしかかかなかったぶっとびスープ  
佛跳牆

士林夜市はまるで日本の夜祭のような賑わいでした。地下鉄の駅から人々の押し合いが始まりました。人ごみに押されて歩いていると私の肩掛けカバンから折り畳みのメガネが路上にカチンと音を立てて落ちました。カバンのチャッ



韓国のタコ焼きは蛸がまるまる一ぴき

クはきちっとかけていたのですが、いつの間にか見事に開いていました。中にはガイドブックと地図、メガネとチリ紙しか入っていませんでしたが、一瞬で他人のカバンを開ける素晴らしい技術を持っている人がいるのですね。皆さんも気を付けてください。

夜市自体もお祭りの夜店のノリでした。地上にはお土産屋さんやゲーム屋さん。そして地下が目当てにきた食べ物街。恐ろしいくらいの活気。どんなものが食べられるのかおよそ見当もつきません。まずは偵察のためぐるりと一周。何度もお兄さんお姉さんに呼び止められました。それにもめげず一通り見て回りました。棺桶の材料という恐ろしい気なものがおいしそうでした。揚げた食パンにシチューが挟まった一品です。カニクリームを選びましたがこれが逸品、大正解でした。日本でもどこかで食べられるのかなあ？そのほかにも浅蜆のスープや野菜炒めを試してみましたが、みんな正解でした。餃子もシューマイも全部おいしかった。胃袋の小

さが恨めしかったのです。

帰りの路上で見かけた屋台で「韓国風たこ焼き」なるものを売っていましたが、なんと小さな蛸が丸ごと入っているのですね。長生きすべきですね。色んな珍しいものに出会います。

まだまだ、死ぬほど食べたのですが、字数の制限でこれくらいにしましょう。

結論！帰国してから恐る恐る秤に乗ったのですが、体重が増えていなかった。台湾はダイエットにもいい。



地下鉄

事務所だより

平成二十九年第五回通常総会の開催

期日 二十九年五月十日 水曜日

場所 ルポール麹町 2階ルビー

総 会 一六〇〇〇

講演会 一六〇五〇 講師・参議院議員・元復興大臣 平野達男 先生

懇親会 一八〇〇〇

\* 新入会員のご紹介 (平成二十八年十二月十五日～二十九年四月十一日)

平野照子、竜川媛、傳旭華、浅野真一 (敬称略)

編集後記 季刊「亜東」平成二十六年 新春号

○多くの顧問・役員・会員の皆様のご寄稿誠に有難う御座いました。季刊「亜東」にご寄稿、

台湾・協会に関する歴史 体験 記録 旅行記 提言等 お待ち致しています。一頁・

一三〇〇文字程度 二頁・二六〇〇文字程度。写真も掲載可能です。

Eメールにて事務局まで E-mail atousinzen@nifty.com

○協会活性化を目指し、会員の拡充を図っています。所定の入会申し込みに基づき理事会の議を経て会員になります。多くの皆様のご参加を期待します。会員各位のご紹介を、お願い申し上げます。

【年会費】①法人五万円以上。②賛助会員三万円。③個人一万円。

季刊 **亜東** (アジアの架け橋) 平成29年 春季号 (No.61)

発行日 : 平成29年4月15日

発行所 : 一般社団法人亜東親善協会

発行人 : 大江康弘

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館2階

Tel : 03-3261-6405 Fax : 03-3556-5770

H P : atousinzen@nifty.com

印刷 : ヨシダ印刷株式会社

台湾の翼 チャイナ エアライン

なら、うまくいく。



ビジネスはチャイナ エアラインで  
[www.china-airlines.co.jp](http://www.china-airlines.co.jp)

